

実践報告 (Report)

模擬授業演習(幼稚園)の立案とその教育効果

An estimation of the planning of kindergarten class
simulate exercise and its educational effect

清 葉子
Yoko Kiyoshi

摘 要

本研究では、保育者養成課程における「模擬授業演習(幼稚園)」の教育的効果を検討した。学生へのアンケート調査から、学生は2回の模擬保育を実践することにより、保育の計画(Plan)→実践(Do)→評価(Check)→改善(Action)のPDCAサイクルを経て保育実践力を高めていく効果が期待されることがわかった。模擬保育の実践は、学生のスキルアップをはかるとともに実習前に自分の取り組むべき課題に気付くきっかけを担っていると考えられる。また、お互いの模擬保育を体験し、評価をフィードバックし合うことを通して、学生同士の協同的な学びの役割を果たしていることがわかった。

キーワード：模擬保育、PDCA サイクル、保育者養成課程

Key words : class simulator exercise, PDCA Cycle, Training Program of kindergarten teachers and nursery teachers

1. はじめに

学生自身の計画に基づき、演習形式で行われる模擬授業は、保育者および教師養成課程の質的な充実を目指す授業科目として、近年、保育者養成校の中でも様々な実践が行われている。石川(2012)は、「模擬保育は、実習を行う学生にとって予行演習になることはもちろん、自分の長所や短所を見出す良い機会」¹⁾になるとし、高根ら(2012)は、保育内容総論での模擬授業を通しての授業改善の効果として、保育が展開される過程で学生が様々な点で気づきが多くみられるようになり、「保育者の援助のさまざまな視点への注目が目立つようになった」²⁾と述べている。また、2010年に新設された教職実践演習の授業方法としても「役割演技(ロールプレイング)、事例研究、現地調査(フィールドワーク)、模擬授業等も積極的に取り入れることが望ましいこと。」³⁾とされており、小山ら(2012)⁴⁾打越(2012)⁵⁾など多くの保育者養成校において教職実践演習の中で模擬授業の実践が試みられている。このように、

模擬授業を通しての学生の学びやその効果・課題について、数多くの研究・報告がなされている。

筆者が所属する椋山女学園大学教育学部では、椋山独自科目という区分で「模擬授業演習」が設定されている。筆者は、開講されている8クラス中4クラスを担当している。この4クラスには、主として保育士・幼稚園教諭を目指す学生が所属し、授業は「模擬保育」を中心とした内容を扱う。本学部の模擬授業演習では、学生は、ひとり2回の模擬保育を行う。そこで、2回目の模擬保育では、1回目の反省点や改善点をふまえて指導案を立案し、実践に臨むよう指導した。このような過程は、保育の計画（Plan）→実践（Do）→評価（Check）→改善（Action）のPDCAサイクルを経て保育実践力を高めていくことができると考えた。

筆者が、PDCAサイクルに着目した理由は、保育における自己評価が保育の質の向上に重要であるとされてきたことにある。保育所保育指針には、「保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、その専門性の向上や保育実践の改善に努めなければならない」⁶⁾とし、保育所保育指針解説書には、「保育士等が行う自己評価は、保育実践の改善のため」⁶⁾にあり「保育は計画、実践、省察、評価、改善、計画という循環を重ねながら展開」⁶⁾すると明記されている。この循環は、保育所における自己評価ガイドラインに「保育所では、保育指針を踏まえた保育課程を編成し、それに基づく指導計画を作成します。計画（Plan）に基づき実践し（Do）、その実践を評価し（Check）、改善（Action）に結び付けていくというPDCAの循環が重要であり、これらの連動のなかで保育の質と職員の協同性が高められていく」⁷⁾とされ、PDCAサイクルの理念モデルを示した。このように、保育においてPDCAサイクルは注目されており、この一連の流れは「ひとつのサイクルとして完結するものではなく、そこからより発達していくらせん状の過程を表し、この循環により、保育士等の専門性の向上とともに保育所全体における保育の質の向上が図られ」⁷⁾ていき、より質の高い保育の実現が期待されている。

そこで本研究では、模擬授業演習を通しての教育効果を評価することを目的とする。具体的には、授業中に実施したアンケート調査から次の2点について検討した。1つ目は、実習で学生が行った保育実践の内容である。模擬授業演習では、実際の保育現場での実習を想定した模擬保育を展開することが求められるため、実習で学生たちが、どのような部分実習を行っており、実習先でどのような指導を受けているのかを調査し、学生の実習での学びについて検討する。2つ目は、授業終了後のアンケート調査から、その効果と今後の課題について検討する。これらアンケート結果の検討を通して、学生は、筆者が立案した模擬授業演習から何を学んだか、そして、その後の保育実習にどのような影響を与えたかについて考察した。

2. 方法

2-1. 授業の計画

授業方法は、学生が模擬保育を行う演習形式とし、授業の到達目標を「保育指導案を作成し、模擬保育を通して保育の方法や展開を体験し、実践能力を培う。」と設定した。

授業は、以下のような流れで行った。まず実践に先立ち、授業のはじめの2回は2年次の保育実習記録や指導案例を用いて指導計画作成の基本的事項、配慮すべき点などのポイントを確認した。その後、①模擬保育を担当する学生は、実践に向けて授業での配布資料や遊びの指導を参照しながら保育のねらいと内容を検討し、実践の2週間前までに指導案を作成し、筆者から個別指導を受ける。その後、教材準備等を行う。②当日は、受講生を幼児に見立てたロールプレイ型の模擬保育を行う。他の学生は、指導案に示された年齢の子どもの姿を想定し、子どもの発達段階や実態をふまえて子ども役として参加する。③2回目の模擬保育では、PDCAサイクルの観点（図1）から、1回目で得られた課題を解決した上で実践することとした。

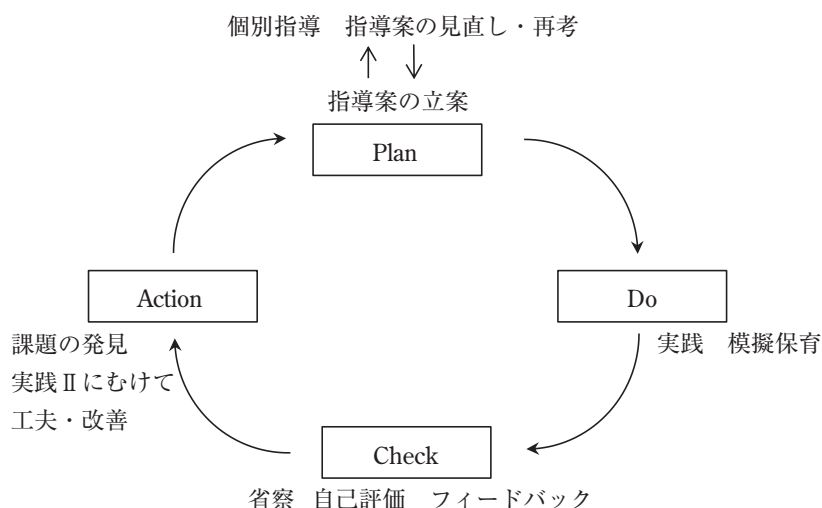


図1：模擬授業におけるPDCAサイクル

また、模擬授業演習は、3年生の7月に行われる保育実習Ⅱ（保育所）と9月に行われる教育実習A（幼稚園）の前に開講される科目である。そこで、7月の実習が始まる前に、すべての学生が模擬保育を2回経験できるよう配慮して授業計画をたてた。最終回では、保育所実習での保育実践をふりかえることも含め、9月の幼稚園実習への課題を明確にし、夏休み中に準備をし、幼稚園実習に備えられるようにした。

2-2. 模擬保育の実践内容

模擬保育の実践グループは、1 グループ 3～4 人で構成され、6 グループ作った。メンバーは学生たちで決めた。1 人 20 分程度の実践を考えて行った。模擬保育Ⅰ・Ⅱの内容については、学生がそれぞれ異なる 2 つの内容を自由に選択し、設定した。その内容は、大きく分けて①製作②あそび・ゲーム・競争③音楽・リズム・体操とした。また、対象年齢については、「模擬授業演習」が教育実習に位置づけられる科目であるということから、幼児を対象とし 3 歳児～5 歳児までの年齢から自由に選択することにした。実践の内容の選択については、筆者がこれまでの学生の実習状況から、実習先で行う部分実習等の内容が製作になりがちであるという傾向を把握していたことと、学生は集団遊びを行う経験が少ないことから、できるだけ自分が実践したことがないこと・苦手なこと・チャレンジしてみたい・試してみたい内容の実践を設定するように指導した。(図 2, 3)



図 2：模擬授業演習の様子（集団遊び）



図 3：模擬授業演習の様子（製作）

実際に学生が行った模擬保育の内容は表 1 に示した。集団遊びや製作を行う学生が多く、今年度は、製作したものを保育室や壁面に飾れるものを設定した学生が多かった。また、年齢別でみると 5・4 歳児が多く、3 歳児は少ないという結果であった。

表 1：模擬保育で学生が行った内容

対象年齢	3 歳児		4 歳児		5 歳児		合計
模擬保育の内容	1 回目	2 回目	1 回目	2 回目	1 回目	2 回目	
製作(作ったもので遊ぶ、おもちゃ)	0	1	2	4	9	1	17
製作（絵画・作品・折り紙など）	1	4	5	4	8	7	29
製作（保育室や壁面に飾れるもの）	1	2	3	6	0	5	17
集団遊び（鬼遊びなど）	2	3	15	11	19	11	61
競争あそび(チーム対抗で行うもの)	0	0	2	2	3	4	11
ゲーム（なぞなぞ、あてっこなど）	1	0	2	3	5	7	18
リズム・表現遊び、曲に合わせて踊る	0	3	3	4	3	2	15
合 計	5	13	32	34	47	37	168

2-3. 模擬保育後の評価

実践後は、保育者役の学生には、自己評価シートを用意した。評価の視点として、①事前の準備 ②保育の内容・組み立て ③保育の進め方・展開 ④説明・話し方（声の大きさ・スピード） ⑤よかった点、成功した点 ⑥うまくいかなかった点およびその原因と今後の課題、の6項目を設定し、それぞれについて、「5 とてもよい 4 よい 3 ふつう 2 もうひとがんばり 1 改善が必要」の5件法で評価した。加えて、他の学生からのフィードバックシートから自らの実践をふりかえり、2回目の模擬保育につなげた。子ども役の学生には、模擬保育へのフィードバックシートを用意した。評価の視点は、①事前の準備 ②保育の組み立て、保育の内容 ③保育の展開（進め方・説明・声の大きさ・スピード等） ④アドバイス・参考になったところ・学んだこと、の4項目を設定し、それぞれについて、意見や感想を記述するとともに、自己評価シートと同様の5件法で評価した。また、筆者は学生の実践中ストップウォッチで時間を計り、実際の保育がどのように進められているのか、保育の展開の様子などを学生の指導案に記入し、気づいた点やアドバイスをフィードバックして伝えた。

学生はこれら全てをとりまとめ、「実践ノート」を作成した。実践者は、自己評価とフィードバックシートをもとに実践の改善のアイデアを、子ども役の学生は、実践者の保育から学んだことや改善のアイデア等を「実践ノート」に記録した。

2-4. 保育実習・模擬授業演習に関するアンケート調査

模擬授業演習の効果と今後の課題を探るとともに、保育実習での学びを知ることが目的にアンケート調査を行った。2012年7月18日の模擬授業演習の最終回に、受講者85名に配布し、全員から回収した。アンケートの内容は、①実習で体験した保育実践、②模擬授業演習についての2点から質問紙を作成し、アンケート調査を行った。回答は、選択式と自由記述で行った。アンケート内容は、以下に示した。

①保育実習での保育実践について

- ・指導案を書くにあたって実習先で指導を受けた内容について
- ・実習中に行った保育実践で困難だったこと、うまくいったこと

②模擬授業演習について

- ・授業に期待していたこと
- ・授業方法、指導案個別指導、フィードバックシートについて
- ・授業の満足度、改善点、感想
- ・模擬授業演習を通して身についたこと、役立ったこと

3. 結果

3-1. 保育実習のアンケート結果

(1)保育実習Ⅱで行った実習

実習中に指導案を書いた学生は、はいが84名 いいえが1名であり、ほぼすべての学生が必ず1回は指導案を作成し、部分実習などの保育実践をしていることが分かった。その回数は、図4に示したとおりである。

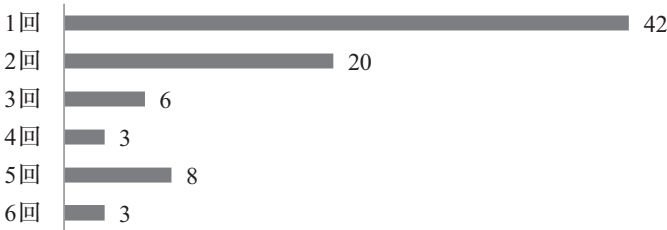


図4：保育実習で指導案を書いた回数

指導案の内容を筆者が分類し、多い順に表2にまとめた。製作が多く、集団遊びや競争あそびといった活動が少ない傾向が明らかになった。7月上旬に実習を行ったので、プール遊びや製作のテーマを夏の季節に合わせて行った学生もいた。

表2：保育実習Ⅱで行った保育の内容（複数回答）

保育の内容	
製作（絵画・作品・折り紙など）	25
リズム・表現遊び、曲に合わせて踊る	17
絵本・パネルシアター・エプロンシアター・手遊び	16
プール・水あそび・フィンガーペインティング	15
製作（作ったもので遊ぶ、おもちゃ）	13
新聞紙を使ったあそび	13
ゲーム（じゃんけん、クイズなど）	12
製作（花火・うちわなど夏をテーマにしたもの）	11
製作（保育室や壁面に飾れるもの）	7
競争あそび（チーム対抗で行うもの）	7
集団遊び（鬼遊びなど）	5
お楽しみ会	1

指導案作成の際にどのようなものを参考にしたかについては、表3に示したとおり、模擬授業演習で行った指導案が一番多く、次いで大学の実習指導や模擬授業演習で

の資料を挙げた学生が多かった。学生は、実習経験や大学の授業で得られた経験や知識をもとに指導案を作成していることがわかった。

表 3：何を参考にして指導案を作成したか（複数回答）

参考にしたもの	
模擬授業演習での指導案	67
実習指導・模擬授業演習の参考書・プリント	25
昨年度の実習日誌・指導案・実習経験	14
市販の保育図書・保育雑誌	8
先生や先輩からのアドバイス・園の先生の保育	8
実習指導の際に添削を受けた指導案	5
インターネット	1

実習中に、園で指導案の書き方等について指導された内容を図 5 に示した。大きく次の 3 つについて指導されていた。1 つ目は、指導案の書き方についてである。言葉づかい、文章表現、記入の仕方についてなど書き方についてである。誤字脱字を指摘された学生が 15 名いた。2 つ目は、保育の計画全体についてである。保育のねらい・内容をどのように設定すればいいのか。導入・展開・活動の終わりについてどのように考えて保育を進めていくのかを詳細に記入することが求められた。3 つ目は子ども理解である。記入された内容が、予想される子どもの姿や発達に合った活動や援助であるか考えるための指導であり、子どもの姿に合った具体的な手立てを記入するように求められていた。

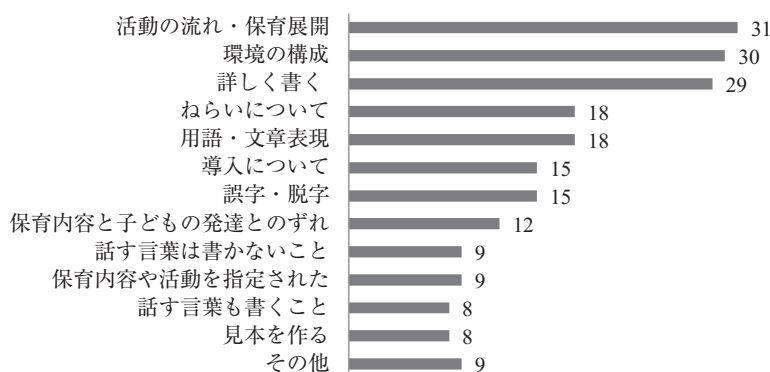


図 5：園の先生方から指導案の書き方で指導を受けた内容（複数回答）

実際に保育実践を行う中で困難だと思うこと（図 6）また、うまくいったこと（図 7）を図に示した。

個々の子どもへの対応と集団への援助，子どものへの言葉がけ，子どもの興味・関心のひきつけ方といった具体的な子どもへの援助・対応に対して，難しさを感じていた。実際の子どもの援助の仕方や関わり方に困難さを感じていた。

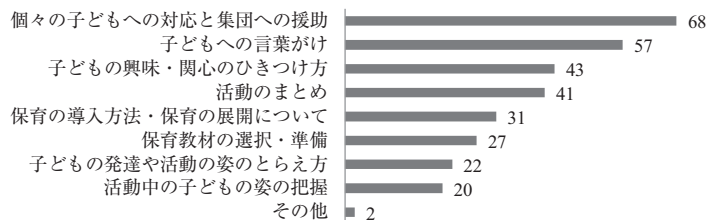


図6：保育を実践する際に困難だと感じたこと（複数回答）

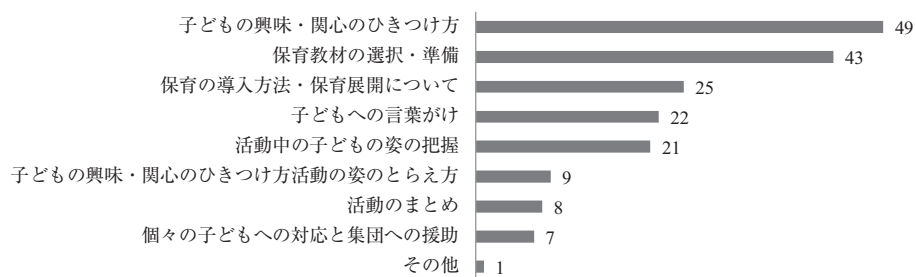


図7：実践する際にうまくいったと感じたこと（複数回答）

図6，7の図を比較してみると，「子どもの興味・関心のひきつけ方」・「保育の導入方法・保育展開」「保育教材の選択・準備」は困難だと感じるが，実際にはうまくいったと評価する学生が多いようだ。その反対に，「個々の子どもへの対応と集団への援助」・「活動のまとめ」は，困難だと感じる学生も多く，実際にうまくいくと感じる学生も少ない。この点は，学生の課題として今後の指導に生かしていきたいポイントである。

(2) 模擬授業演習から学生が得たもの

(2)－1. 授業運営について

模擬授業演習の授業方法について，大変良かった62名，良かった23名とすべての学生からおおむね良かったという回答が得られた。良かった点としては，①指導案の個別指導②保育実践Ⅰ・Ⅱの内容③フィードバックシートの作成が挙げられた。自由記述の内容の一部を下記に示す。

①指導案の個別指導

・先生に指導案を見てもらう時間もあり，余裕を持って準備したり指導案を考え

ることができた

- ・先生にアドバイスをいただいて内容を深めることができた

②保育実践Ⅰ・Ⅱの内容

- ・指導案の指導・実践・ふりかえり・他の子たちからのアドバイスとすべてが含まれていてとてもよかった
- ・授業中に先生のアドバイスなどもあったり、保育をした時に自分の指導案へ時間やアドバイスを書いてもらうことができ、より勉強になった
- ・自分で実践するだけでなく、周りの人の実践を見ることができとても勉強になりました

③フィードバックシート

- ・自分で反省するだけではなく、他の人の意見も聞き自分が様々なことに気付くことができたのでフィードバックシートを取り入れていたところがよかった
- ・自分の苦手な事や足りないことがよくわかり、どうすればよくなるのかななどを考える機会になった

おおむね良いという結果ではあったが、可能であれば屋外の授業もしてみたい、実践時間がもう少し長くてもよい、床が絨毯のため膝を擦りむいた学生もいたという回答も得られ、今後の改善事項としていきたい。

(2)-2. 指導案個別指導について

指導案個別指導については、大変良かった57人 良かった26人 少し不満2人となった。良いと評価した理由としては、①指導案作成のノウハウ②保育のアイディア③自分では気が付かなかった点の発見の3つに分類することができた。各項目の自由記述の内容の一部を下記に示す。

①指導案作成のノウハウ

- ・全体への指導だどうしても自分に当てはまらない部分が出てくるが、個別指導なので「自分の」課題点を知ることができる
- ・ただ赤字で直してあるとかではなく、個別に指導してくれるので質問もできるし、保育者の意図や工夫などわかりやすく説明が聞けるので勉強になった。

②保育のアイディア

- ・他の方法やアイディアも下さってより自分の中で考えが広がったし、実習で指導案を考えた時にもいかせた
- ・自分では思いつかないアイディアなども教えて頂けた

③自分では気が付かなかった点の発見

- ・順番的にうまくいくことが難しい点や下準備としてやっておいたほうが良いことなど私だけでは予想できなかったところを教えてくれてより本番を見据えた

指導案作りができた気がします

- ・自分では気づくことのできなかった配慮などを教えて頂くことで、実習中もそういったところにも意識を持って臨むことができた

筆者は、授業担当者としてどのように学生とコミュニケーションをとれば良いかを考えた。個別指導の際の流れは、次のようにした。まずはじめに、指導案に記載されていることに対して質問をしていくこととした。指導案作成に対して準備不足であったり、製作の場合など見本を作って持ってこないなどに対しては、準備を万全に行い、やり直しをするように指導をした。また、学生は苦手な事には自分から進んで実践しないため、例えば実践の中でピアノを弾くことなどを取り入れるようアドバイスし、苦手なことにもチャレンジしてみようという気持ちが持てるよう導いていけるようにした。

また、保育の内容・展開に関しては、複数の方法を提示し学生への適切な助言を行った。学生に考えさせるアドバイスをを行うよう心掛けた。保育の内容・方法や展開の仕方は多様であり、必ずこのようにしなくてはならないということのほうが少ない。1つの手立てを示すのではなく、学生の気付きを導く手助けをすることが大切であり、保育には様々なやり方がある。あってもよいということを知れば、学生の自由な発想の保育が展開できるのではないかと考えたからである。担当者として学生に様々な保育内容・方法を示せるように、日頃から担当教員も教材研究をしたり、公開保育等なるべく多くの保育を見る機会をつくるようにして、今後も学生に多くのアイディアを提供できるようにしていきたい。

不満として挙げられた理由は、個別指導の時間の持ち方についてであった。1人あたりの個別指導時間の長さや、個人によって指導時間の長さが違っていたことが挙げられた。今後、どのように個別指導を行うかを検討課題としたい。

(2)-3. フィードバックシートについて

フィードバックシートについては、大変良かった51人 良かった29人 少し不満4人という結果であった。良かった点としては、①無記名だったため、コメントが書きやすかった②コメントから新たな発見があった③自分の保育が客観的に分かった。不満な理由としては、①フィードバックが無記名のため提出しない人がある②フィードバックシートを書く時間が十分に取れない③毎回書くのは負担が理由として挙げられた。来年度に向けて改善が必要である。

(2)-4. 授業に対する満足度について

模擬授業演習を受けた満足度は、大変良かった72名 良かった12名 少し不満1名であり、おおむね良いという評価が得られた。その理由としては、①実習に役立った②成長できた③多くの学びがあった④自分に課題が得られたであった。少し不満で

あるという理由には、色々な内容があつてよかったが、屋内ということもあり、ある程度やる内容が制限されてしまったことなどを挙げていた。各項目の自由記述の内容の一部を下記に示す。

①実習に役立った

- ・模擬授業演習で身についたことを実習で生かせること
- ・自分が実習でやってみたいと思えるものがあり、役立った

②成長できた

- ・保育をする上での自分の長所・短所を知る機会になり、自分のレベルアップにつながったから
- ・回を重ねるごとに人前で保育することに慣れてきて実際の実習でも落ち着いてできたので自分の成長が見られたこと

③多くの学びがあった

- ・自分で実践をし、評価をしてもらう。人の実践を見て評価するこの流れで保育の視野が広がったと思うから
- ・実際にやってみると計画していたのとは全然違う方向に進んだり、特に時間配分に関しては、予想と違っていて勉強になりました

④自分に課題が得られた

- ・実際に保育をすることで自分の改善点や課題を見つけることができた

(2)－5. 授業に対する改善点について

模擬授業演習の授業に改善したほうがよいと思われることを聞いたところ、改善点がない 54 人 ある 30 人という結果であった。満足である理由として、①体験型であること、ロールプレイ型で保育者・子ども両方が体験できるところがよい②模擬保育を 2 回できるところ、1 回だとその反省を生かす場がないが、2 回だと反省も活かせるのでちょうどいい③指導案をつくる→保育をする→フィードバックシートを読んで反省するというシステムがよいという意見が得られた。改善点としては、①フィードバックシートの改善②保育実践の内容等の改善③時間・場所の改善について挙げられた。各項目の自由記述の内容の一部を下記に示す。

①フィードバックシートの改善

- ・フィードバックシートをその場で出すには時間が足りない
フィードバックはその場で渡すのではなく、1 週間後というように決めておく
と無記名の意味が増すように感じた
- ・フィードバックシートが無記名なのはいいが、フィードバックシートを出さない人がいて、あまり集まらず、ふりかえりがしにくかった。意識の問題のような気がしますが、フィードバックシートの提出方法はもう少し改善が必要だと

思います

- ・フィードバックシートの項目がどこに当てはまるのかあいまいな時があった

②保育実践の内容等の改善

- ・あそびが連続で続くときつかったので、そこをうまく調節して欲しかった
- ・4, 5 歳が多かったので、色々な年齢になるようにしたほうがよいと思った
- ・0～2 歳向けのものもあってよかった
- ・もっと子ども役になりきって行動してもよかった
- ・実際の保育現場のように喧嘩して利する子があってもよかった
- ・他のクラスの指導案も見なかった

③時間・場所の改善

- ・長ズボンを必ず着用にしたほうがよいと思う
- ・時間通りにいかない。授業が長引くときがある
- ・屋外かもしれない他の教室も使えたらよかった。体育館を使いたかった
- ・実践時間を 20 分だけではなく、20 分以上もやってみたかった
- ・時間があれば、もっと経験したかった

フィードバックシートについては、実施方法・回収方法・フィードバックシートの内容や項目の検討が必要であろう。以上 3 点の改善点についても、次年度にむけて検討し改善をはかりたい。

(2)－6. 模擬授業の効果

模擬授業演習は役に立ったかについては、とても感じた 57 名 少し感じた 24 名 あまり感じなかった 4 名であった。どのような点が役に立ったかを図 8 に示した。

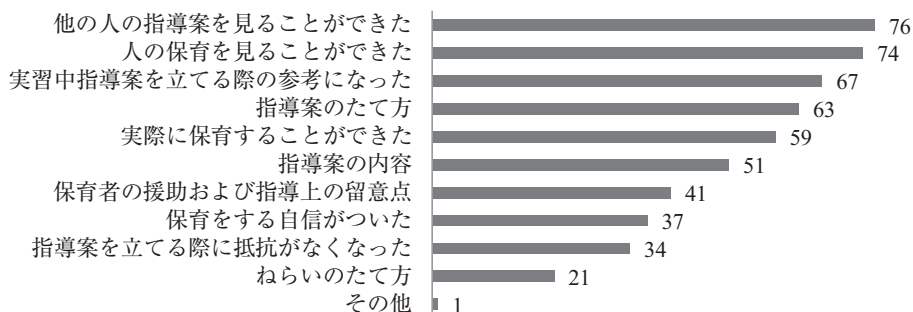


図 8：模擬授業演習を受けて役立ったこと（複数回答）

あまり感じなかった理由としては、実習クラスが 0～2 歳児だったので指導案が使

えなかった。実際の子どもに対して、予想される子どもの活動の想定が不十分であったが挙げられた。

また、模擬授業演習に期待していたことは①実践力の向上②指導案の立案と実践の展開方法③保育のアイディアを得る④友達との学びあいのできたの4つに分類することができた。各項目の自由記述の内容の一部を下記に示す。

①実践力の向上

- ・子どもに対して適切な援助ができるようになりたい
- ・人前で緊張しないで堂々と人前に立って保育することに慣れたい、自信をつけたい
- ・保育の時間配分や保育者の立ち位置・言葉がけの仕方実践的に学びたい

②指導案の立案と実践の展開方法

- ・指導案の書き方を知り、指導案を書くことに慣れたい
- ・指導案の書き方や内容を先生に個別に指導してもらえること
- ・保育の展開の仕方を知りたい

③保育のアイディアを得る

- ・いろいろな遊びや製作を知りたい
- ・たくさんの保育を体験し、人の保育や指導案を見て保育のアイディアを増やしたい

④友達との学びあいのできた

- ・フィードバックシートで他の人の意見を知り、友達に評価してもらえることで実践をふりかえることができる
- ・みんなのやり方を知り、学びたい。クラスの子の保育の良いところを吸収したい

模擬授業演習では、実際に保育をする中で、④友達との学びあいができるという点も特色の一つである。ロールプレイ型で学びあうことで、保育の流れを意識したり、シュミレーションできる力につながっていく。人の保育を多く見て体験することや自分だったらどうするのかと考えることを通して、臨機応変に対応できる力の育成につながっていききたい。

模擬授業演習を通して身についたことは①指導案の立案・展開方法②子どもへの多様な援助と関わり方③保育をふりかえること・考えることの大切さ④保育のアイディアが増えたの5つに分類できた。各項目の自由記述の内容の一部を下記に示す。

①指導案の立案・展開方法

- ・指導案を考える際の注意点・気を付ける視点を持てるようになった
- ・保育の展開や流れが意識できるようになり、シュミレーションできるようになった

②子どもへの多様な援助と関わり方

- ・子どもへのわかりやすい説明の仕方・話し方・言葉がけ・声のボリュームがわかった
- ・子ども役をすることによって、子どもの姿が捉えられるようになり、子どもの姿がイメージできるようになった

③保育をふりかえること・考えることの大切さ

- ・悩むこと考えることの大切さを知った
- ・自分の欠点や改善点、良かった点を受け止めて次につなげようとするようになった

④保育のアイディアが増えた

- ・たくさんの遊びを知ることができた。アイディアが浮かぶようになった
- ・教材研究をして、教材の素材の特徴などを知ることができた

模擬授業演習に期待することと身についたことを比べてみると、学生が模擬保育後に自分の保育をふりかえることや考えることの大切さに気付いたことに着目したい。実践後には、毎回自己評価やフィードバックシートを通して実践をふりかえる機会を作り、次の実践に反映をさせる手段とした。学生は、これらの過程を通して多くの気づきや学びがあり、この過程こそ大切であるということを認識することができた。

個別指導では、学生が筆者に質問したり、疑問点を解消させることができる機会である。学生の思いを活動に反映させることができるよう個別にアドバイスすることができる。また、それぞれの実践事例に合わせた対応については、授業内で活動のバリエーションや配慮・援助のポイントを解説できるので、学生全体にケースに応じた多様な対応の仕方があるということを示すことができ、大変有効的である。

その他の学生の変化としては、1回目の実践では、準備が不十分である学生もいたが、個別指導をする中で、準備を十分に行うことが成功につながることや、他の学生の姿に刺激を受けて、2回目の実践では準備の段階から余裕をもって取り組むようにするなどの変化が見られた学生が多く見られた。この姿が、実習先でも反映されるよう期待したい。

今後保育をするうえで身につけたい力は、①子どもの発達の姿を知る力②子どもを引き付ける力③個と全体を見る力④保育を見極める力⑤保育を展開していく力の5つの力を挙げた。各項目の自由記述の内容の一部を下記に示す。

①子どもの発達の姿を知る力

- ・子どもの姿を知ること
- ・発達をきちんととらえ、年齢や子どもの姿に合った工夫ができるようになりたい
- ・子どもに寄り添い子どもの気持ちがわかる

②子どもを引き付ける力

- ・子どもを引き付けるような、興味の引き方

- ・子ども全員が楽しんでもらえるような保育
- ・子どもの興味をとらえ、関心を引く話し方

③個と全体を見る力

- ・全体を把握しながら、個々の子どもの様子も把握できるようになりたい
- ・広い視野を持てるようになりたい

④保育を見極める力

- ・子どもへの適切な対応や臨機応変に対応できる力
- ・子どもへの適切な判断、援助、言葉がけの仕方
- ・子どもの動きに対する必要な対応を考える力
- ・子どもの安全を常に配慮できる
- ・子どもの行動を予測する力

⑤保育を展開していく力

- ・ねらいを達成する為にどうしたらよいか
- ・導入する力、活動の締め方、さりげなく遊びを提供する
- ・保育の中での工夫や働きかけ、子どもが楽しめる雰囲気づくり、環境づくり
- ・表現力や歌や手遊び・ダンスのレパートリーをふやす
- ・子どもの意欲を高める配慮

最後に、現時点で保育職に就きたいかについて聞いた。将来保育職に就きたい・少し就きたいと回答したのが合わせて 78 名であり、その理由として①仕事への憧れ・魅力②子どもに関すること③目標とする保育者との出会いをあげた。また、就きたいという学生の中にも、就きたい気持ちがある半面、保育者の責任が大きいことや自分で務まるかという不安や保護者や職場での人間関係に不安を抱いている学生もいた。

就きたい理由

①仕事への憧れ・魅力

- ・とても魅力のある仕事だから
- ・とてもやりがいがある仕事だから
- ・夢だったから

②子どもに関すること

- ・子どもがかわいい、好きである
- ・子どもや人と関わるのが好き
- ・子どもの成長に関わり、援助し、見守ることができるから

③目標とする保育者との出会い

- ・実習先の先生に、頑張ってねと言われ、頑張ろうと思った
- ・実習先で素敵なお先生に出会い、自分もそうなりたと思った

あまり就きたくない・就きたくないと考えている学生は合わせて 7 名であった。そ

の理由として、①自分にはむいていない・務まるか心配②他の職種に興味があることを理由に挙げた。

就きたくない理由

①自分にはむいていない・務まるか心配

- ・以前も悩んでいたが、今回の実習で自分には不向きかもしれないと強く思った
- ・子どもが好き、かわいいという気持ちだけでは難しいと思ったから
- ・実習から多くのことを学ぶことができるが、将来の仕事としてやっていけるか不安
- ・体力が持たなかったから。体力的に不安

②他の職種に興味がある

- ・やりたいこと、これからも長く関わっていききたいことをよく考えた結果、他の職業・職種に興味を持ち始めたから
- ・保育士の仕事は、とてもやりがいを感じるが、私の中で将来の仕事とは別だから

本学に入学する以前から保育者になりたいと思っていた学生が多いが、実習で実際に保育に携わる中で、実際に保育現場や保育者から受ける影響力は大きく、学生の気持ちが揺れ動きその後の進路に影響を与える。実習を通して現実に向き合い、自分が保育者に向いているのか、務まるのかを悩む学生もいる。多くの学生が自分のモデルとしたい保育者や憧れを抱ける保育者に出会えることを期待したい。

4. 今後の課題

本研究を通して、保育実習での学生の学びと模擬授業演習の効果が明らかになった。学生へのアンケート調査から、模擬授業演習を通して以下のような効果が得られた。

①学生のスキルアップ

本学では、「模擬授業演習」は栢山独自科目という区分で設定されており、15回の授業すべてを、模擬授業に充てることができる。学生は2回の実践を行うことが可能であり、模擬授業（保育）演習は、保育の計画（Plan）→実践（Do）→評価（Check）→改善（Action）のPDCAサイクルを実現することができた。（図1）ひとつのサイクルで完結してしまうのではなく、1回目の実践を踏まえ、2回目の実践では、1ステップ高いサイクルへと発展させることが可能である。これらのプロセスを経て、様々な保育を体験する中で、学生同士が保育のアイディアを得たり、保育者の援助方法などについて考え、スキルアップを図ることができた。

②自らの課題の発見

学生は模擬授業演習を通して、2回の保育実践をすることにより様々な角度から多

くの学びがあったことが分かった。7月の保育所実習・9月の幼稚園実習に直結した重要な役割を果たし、保育実践に必要なスキルを身につけ、保育実践力を高めていく機会となっていた。近い時期に実施される「実習に向けて授業に取り組む」という明確な目標がどの学生にもあり、経験を通して自らの保育を見直し、学生が実習前に自分の取り組むべき課題に気が付くきっかけを担っていた。

③協同的な学び

毎回、保育のふりかえりを行った。実践者は、自分の実践をふりかえり、子ども役の学生は実践者の保育から保育方法や言葉がけなどを学んだり、自分ならどのように実践するのか考えながらフィードバックシートを記入し、実践後に実践者に渡した。フィードバックシートからは、実践中には自分では気が付かなかった一面に気が付き、再度保育を振り返ることができた。このことを通して①自らの保育をとらえる自己評価、②学生同士の学び合いとしての評価のふたつの側面から保育を評価することができた。このように、お互いの実践をフィードバックすることを通して、学生同士の協同的な学びにもつながっていることがわかった。

本研究を通して、模擬授業演習の効果について検討してきたが、アンケート調査の結果から、フィードバックシートの改善が求められていることがわかった。これを今後の検討課題とし、次年度に向けて実践をふりかえるための自己評価シートとフィードバックシートの様式の検討や回収方法などの改善をはかっていきたい。模擬授業演習を通して、多くの学生が保育は、PDCAサイクルを継続していくことを通して保育の質の向上を図ることができるという自己研鑽のサイクルの大切さに気付くことができたことに注目したい。引き続き、保育の反省・フィードバックにも重点を置くとともに、学生の自己評価の分析も進め、学生の長所・短所や得意・苦手な部分を明らかにしていきたい。

これまでの保育者養成校における模擬授業の効果に関する研究の中でも、岡部ら(2012)は、保育実習Ⅱの事前指導の一環として模擬保育を計画・実践し、一連の報告から「授業を通して、自分自身の課題が明確になった」⁸⁾り、「学生同士の学び合いが学習効果をもたらした」^{9) 10)}ことを、松山(2012)は、「模擬授業を行ってから学外実習を行うことで、自らの保育の考え方を見直す作業を促していることが明らかになった」¹¹⁾と報告している。また、斉藤ら(2012)は、導入の模擬保育の活動体験から、「保育実践における『言葉遣い』・『見本の提示』・『幼児への対応』・『活動の進め方・展開』等、導入の問題をより具体的に捉え、実習に取り組むための動機づけになった」¹²⁾と述べている。本学の学生も同様に、模擬授業演習を通して、「学生の学び合い」・「自分の保育の見直しと課題の発見」・「保育・教育実習へ向けての動機づけ」の役割を担った。

松山(2011)によると、「ワークシートの記述からは、他科目との関連性を意識した記述が見られた」¹³⁾と報告されている。学生は、1年次からこれまでの保育関連科目で学んだことや、実習経験をふりかえりながら保育を計画する。実際に、保育内容

や指導法の授業で出てこなかったか尋ねると、気付いた学生もいた。保育実践は、保育者養成課程で学んだことがそれぞれ影響しあい、絡み合っていることは言うまでもない。本学の学生も同様に、模擬授業演習を通して、保育を実践することで他科目の関連を意識した学生もいた。このように保育は様々な理論や領域が関連しているということを気づくことができるよう助言し、これまでに学生が学習したことに立ち戻り、さらに理解を深めていけるようにしていきたい。

最後に、2012年8月28日付の中央教育審議会答申を受け、学生が、「刺激を受け合いながら知的に成長することができるよう、課題解決型の能動的学修」¹⁴⁾としてアクティブ・ラーニングが推進されている。中央教育審議会答申用語集によると、アクティブ・ラーニングとは、「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」¹⁵⁾とされている。模擬授業演習は、アクティブラーニングに位置づけられる科目ともいえる。筆者が担当している教育実習事前・後指導ともリンクさせて、系統的な指導を行っていくことも可能であり、今後もアクティブラーニングの側面からも様々な角度から学生の実践力を高めていく支援・指導を行っていきたいと考える。

謝 辞

本研究をまとめるにあたり、本学教育学部准教授、野崎健太郎先生にご助言・ご指導をいただきました。ここに感謝申し上げます。また、アンケートにご協力いただきました学生の皆様にもお礼を申し上げます。

引用文献

- 1) 石川恵美（2012）模擬保育における学生の気付きと学び．全国保育士養成協議会第51回研究大会研究発表論文，p. 460-461
- 2) 高根栄美・辻ゆき子（2012）「遊び力」をもつ保育者養成教育と授業改善—保育内容（総論）の演習における模擬保育の試み—．全国保育士養成協議会第51回研究大会研究発表論文集，p. 454-455
- 3) 文部科学省（2008）平成20年10月24日 課程認定委員会 教職実践演習の実施にあたっての留意事項 http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2011/07/22/1267752_05.pdf
- 4) 小山優子・栗谷とし子・白川博（2012）保育者養成における「教職実践演習」の取り組み（1）．島根県立大学短期大学部松江キャンパス研究紀要，Vol. 50，p. 53-62
- 5) 打越みゆき（2012）保育者としての総合力を高める授業「保育・教職実践演習（幼稚園）」の実践—模擬授業を中心としたカリキュラムの検討—．全国保育士養成協議会第51回研究大会研究発表論文集，p. 282-283

- 6) 厚生労働省編 (2008) 平成 20 年「保育所保育指針解説書」, フレーベル, p. 149
- 7) 厚生労働省 (2009) 平成 21 年 3 月「保育所における自己評価ガイドライン」, フレーベル館, p. 3-6
- 8) 岡部佳子・和田美香・後藤範子・渡邊眞理 (2012) 保育実習Ⅱにおける指導案作成から模擬保育へつながら授業の可能性と課題について, 全国保育士養成協議会第 51 回研究大会研究発表論文, p. 222-223
- 9) 渡邊眞理・後藤範子・岡部佳子・和田美香 (2012) 四年制大学の保育実習Ⅱ (保育所) 事前指導における模擬保育の可能性と課題についてⅠ, 全国保育士養成協議会第 51 回研究大会研究発表論文集, p. 248-249
- 10) 後藤範子・渡邊眞理・岡部佳子・和田美香 (2012) 四年制大学の保育実習Ⅱ (保育所) 事前指導における模擬保育の可能性と課題についてⅡ, 全国保育士養成協議会第 51 回研究大会研究発表論文集, p. 250-251
- 11) 松山由美子 (2012) 保育者養成における「保育実践力」育成のための学びの場—模擬保育と学外実習に関する質問紙調査の結果からの考察—, 四天王寺大学紀要, 第 49 号, p. 197-212
- 12) 斉藤葉子・大木みどり (2012) 実習の事前・事後指導に関する研究 (Ⅶ) —責任実習における導入の問題と課題その 2—, 羽陽学園短期大学紀要, 第 9 巻 2 号 (通算 32 号), p. 195-210
- 13) 松山由美子・伊達由美・東隆史・梅野和人・奥千恵子・久家英述・原祐子・村田夕紀 (2011) 全国保育士養成協議会第 50 回研究大会研究発表論文集, p. 360-361
- 14) 文部科学省 (2012) 平成 24 年 8 月 28 日付 中央教育審議会答申, p. 3, 4, 9
- 15) 文部科学省 (2012) 平成 24 年 8 月 28 日付 中央教育審議会答申用語集, p. 37